



すみかわいきもの調査隊

2022

活動

REPORT

隊長：川崎淳一

<https://sumiikiresearchers.wordpress.com/>

すみかわいきもの調査隊が挑戦していること

札幌市南区は、戦後の札幌オリンピック実施の影響もあってか、著しく開発が進んだ地域の1つである。その過程の中で、環境への配慮があまりなされなかったことや、環境保全や生物多様性に対する認識のズレから、生態系に大きな影響を与えてしまう住民活動が見られた事実がある。これらの開発の歴史は、澄川に限定的なものではなく、札幌市の多くの地域で同じような視点で推し進められていた背景がある。札幌市に住むいち市民として、これら開発の歴史を正しくしり、後世にサステナブルな状態で受け渡していくためにどのような行動を取ることができるのか、について今の地域の自然環境を大切にする気持ちを醸成することで各個人の行動変容に繋げていくことを大きな目的としている。

事業を進めるに当たって、フィールドワークはもちろんのこと、プロジェクトWILD/WET、GEMSなどのコンテンツを活用したワークショップを実施し、意図的に参加者同士のコミュニケーションが生じるような場の創出を実施する。

いよいよ、人口減少フェーズに突入した札幌市においても、都市環境の整備と自然環境への負荷を真剣に考えなければならない。

ただ、子どもたちは学校で勉強しているし、大人もニュースや新聞などで触れて「知っている」ことは多い。

例えば、森林伐採のこと。

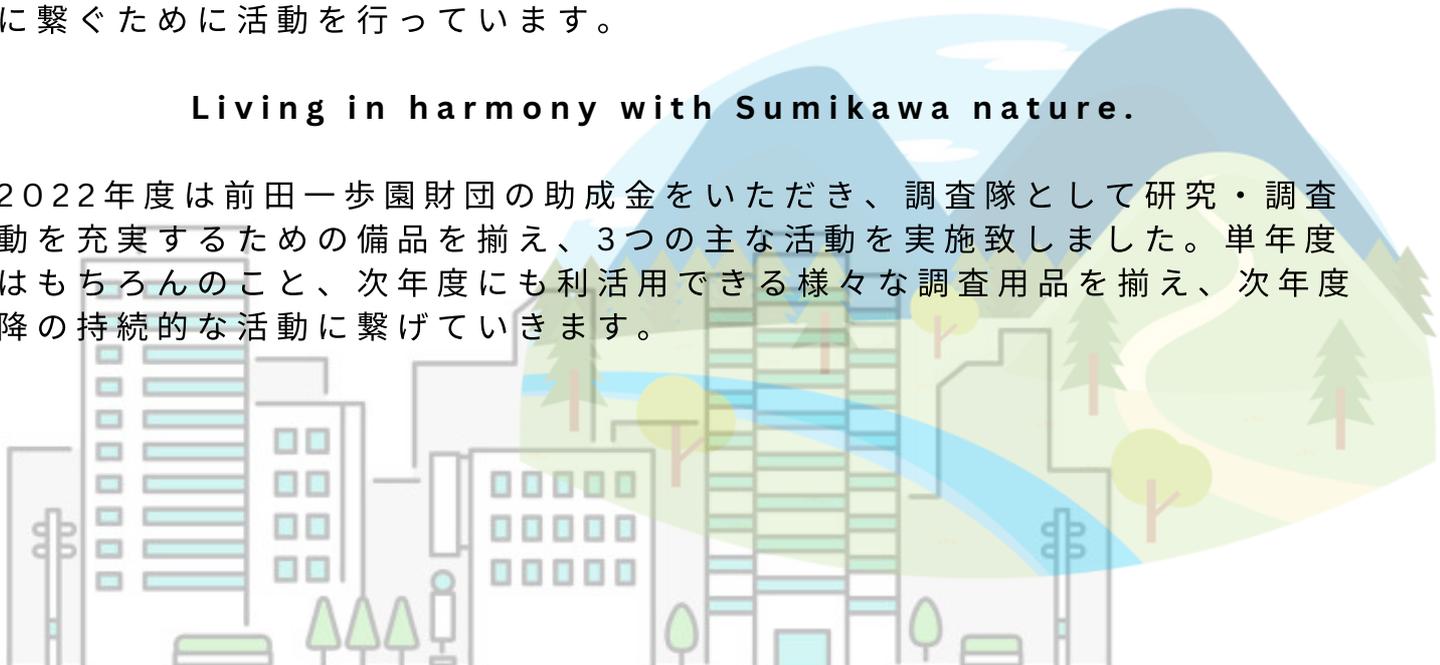
「森林を拓き続けることでそこにいる生き物のすみかを奪ってしまう」ことを知っている人は多いけれども、それに対して「自分」が考え、行動できる人はどれぐらいいるのだろうか？

すみかわいきもの調査隊の活動は、これに対する「当事者意識」を高めるための市民活動としての役割を担っています。コロナ禍におけるアウトドアブームによって、人は良い息抜きや居場所を見つけられたかもしれません。でも、もともとそこにいた生き物たちは居場所を追いやられてしまったかも。

身近な自然と向き合う時間を意図的に設けることにより、今あるものを次世代に繋ぐために活動を行っています。

Living in harmony with Sumikawa nature.

2022年度は前田一步園財団の助成金をいただき、調査隊として研究・調査活動を充実するための備品を揃え、3つの主な活動を実施致しました。単年度ではもちろんのこと、次年度にも利活用できる様々な調査用品を揃え、次年度以降の持続的な活動に繋げていきます。



主な活動内容

すみかわいきもの調査隊の主な活動は以下の3種類です。

- ①「定例活動」
- ②「すみかわむしとり合宿」
- ③「すみかわホタル搜索隊」

①「定例活動」

- ・月に1回程度、定期的に行っている活動です。
- ・メインの活動場所である「紅櫻公園」の自然観望を主な活動内容としています。
- ・ネイチャーゲームの手法や昆虫採集などのコンテンツを主に用いて、自然と親しむこと・参加者同士がコミュニケーションを取り合うことを重視しています。
- ・未就学児から定年された方まで幅広い人たちが一緒に活動します。

②「すみかわむしとり合宿」

- ・夏休みに実施している活動です。
- ・昆虫標本づくりのスキルを獲得し、今の自然の状態を標本という形で後世に繋ぐための人材を1名でも増やす活動です。
- ・小中学生の自由研究のテーマとしてもぴったり。
- ・2022年度は3日間日程での活動となりました。

③「すみかわホタル搜索隊」

- ・すみかわいきもの調査隊の事業の中で、最も人が集まる活動です。
- ・数十年前に澄川を流れる精進川に生息していたと言われていたヘイケボタル。一度は地域から姿を消してしまいましたが、紅櫻公園の地で再発見することができました。
- ・これまでは無意識でしたが、これからは意識的に環境を変えないようにしなければならないということを知るには十分すぎるホタルの輝きが見られます。

NOVICE (初級)



ADVANCE (中級)



EXPERT (上級)



そして、すべての活動は初学者から研究的な視点で参加したい人まで、を網羅しているのです。

2022年度の活動実績と2023年度の展望 Part1

「定例活動」

2022年4月から2023年3月までに9回の定例活動を実施することができました。一昨年どのような、ただの自然観望会から「ネイチャーゲームの手法」等をふんだんに組み込んだ活動を実施することができました。特に、ネイチャービンゴは本隊の活動内容との親和性が非常に高く、利活用しやすいものであることがわかりました。体調自らネイチャーゲームリーダーの資格を取得したことも加え、2023年度はよりプログラムとしての充実を目指していきます。



定番プログラムとして定着しつつあるBINGO



2022年度は「川の活動」からスタート

「すみかわむしとり合宿」

2022年7月27～29日の3日間に実施することができました。近隣小学校の生徒3名、未就学児2名、高校生ボランティア3名での活動です。1日目・2日目の全てを昆虫採集の時間に充てることができたため、十分な標本の数を持って3日目に向かうことができた。高校生ボランティアの存在は大きく、特に未就学児が昆虫針を使用する際の安全管理の際に活躍してくれた。

2022年の夏はエゾアカゼミが大量発生していることを確認することができた。標本としてもしっかりと残すことができた。



2022年度の活動実績と2023年度の展望 Part2

「すみかわホタル搜索隊」

2022年7月20日に実施することができた。参加者は30名越えで、2年連続で定員いっぱいとなった。ホタルの観察会だけでなく、いつも主な活動場所として使用している紅櫻公演のフィールドも歩いてもらい、夜の自然探索も楽しんでもらうプログラムを展開した。

ホタルの発生量としては2021年度よりも多い印象を受けた（定量的ではない）。参加者からフィードバック・振り返りのコメントは以下の通り。

◆活動に対する感想◆

- ・夜間の活動参加ははじめてでした。慣れ親しんでいる場所でも暗闇の移動にドキドキで全く日中とは違う森は新鮮でした。そしてこんなにたくさんホタルが生息していたなんて驚きました。キラキラ飛び交うホタルが毎年見られる環境を保ち続けたいと強く思いました。とても贅沢で至福の時間に感謝しつつ多くの方々にもこの感動を味わって欲しいです。
- ・思っていた以上に人が集まり、ホタル観察のみならず色々な方とのコミュニケーションもできたので、楽しく有意義な時間を過ごせました。
- ・人生初の生ホタルでしたが、とても美しく、興味深かったです。
- ・自然が好きなので、またこういった機会があれば是非参加したいです。
- ・感動をもらった。子供に見せたい！と思ったのに、感動し、はしゃいだのは親の方。
- ・初めて見た！という経験ができたことがすごい！息子がはしゃいでうるさかったけど、生き物についての話ならみんな平和に聞いてくれて優しくかった。ありがたい。子供がイキイキと知識の共有をしていた。みなさんのおかげ。ホタルを実際に見る、これは身近なようで、多くの大人が経験してこなかったことだと思います。
- ・私自信、初めて本物を見て、子ども以上に興奮してしまいました。
- ・幼少期に取りこぼしていた思い出を、大人になった今回収める、そんな素敵な時間でした。ありがとうございました。
- ・こんなに素晴らしい景色を見たのは初めてでした。大都市札幌にこんな素晴らしい自然が残っていることにただただ驚きました。観察会に参加できて本当によかったです。ありがとうございました。

◆環境保全に対して自身ができることは？◆

- ・ホタルを残すことが目的ではなく、ホタルという象徴をイメージしてみんなが環境保全に対する意識を高める必要がある。
- ・ホタルの餌となる巻き貝が生息できる環境である事。澄川はホタルが生息出来る自然豊かな環境がある事を知ってもらう。
- ・ホタルを見られるスポットとして何かに登録してみるのはいかがでしょうか？
- ・ギネス世界記録とまでは行きませんが、北海道といえばここ！絶景スポット！みたいな位置づけを強化すると観光客も増えるだろうし、残していこうという意識が全体的に強まるかと思います。
- ・専門的な事がわかりませんが、みんなにみてほしいけど、ひろめたりしたらいなくなってしまうのかな。どちらにせよ、よくない環境を作らない！作らせない！
- ・まともな人間ばかりじゃないから難しいですね
- ・ホタルに興味を持つこと、ホタルとその現状（危機感）を知ることだと思います。
- ・まず、知ることなのかなと思いました。こんなに素晴らしいところが、知らずに無くなってしまうことのないように、地元の皆様を知っていただく、そして守っていく。そんな活動ができればなと思いました。
- ・自然を守り続ける





すみいき2023始動します。
詳細はHP・FACEBOOK・INSTAGRAMから確認ください。